

●大問1

【出題意図】

アメリカで発生したジョージ・フロイド事件とそれを発端とするブラック・ライブズ・マター運動、コロナ禍に端を発するヘイト・クライムやアジア人差別など、人種差別は21世紀においても重要な問題である。本問では、かかる今日的課題を、過去にさかのぼって理解する歴史的な感性を有しているかどうか、はかることを意図した。

【解答例】

(1) 7、80年前なら、人種差別についての本を書いたり、読もうとした人はだれもいなかったであろう。事実、『オクスフォード英語辞書』(1910年)には、その言葉が掲載されていなかったのだから、だれもそのようなものが存在するとは気づいていなかったのだ。このことは、20世紀以前には人種差別が存在しなかったことを意味するのであろうか。実際のところ、人種差別は19世紀に発生して、その世紀に知的な根源をもつとの共通理解がある(一部の学者はそれがいく分、より長い歴史を有していると考えているのだが)。そのテーマに意見を表明するほとんどの人たちは、人種差別、より正確には「科学的人種差別」と表現されるものは、19世紀に発展した進化にかんする概念の派生物だと主張している。人種差別がそれ以前の時代には確認されないと考えられている以上、伝統的な学知は普通、古代世界には人種にもとづくいかなる憎悪があったことも否定する。しからば、存在していた偏見とは、民族的や文化的なものであって、人種的なものではないと信じられているのだ。

(2) チャールズ・ダーウィンが唱えた進化論を都合よく解釈し、同じ人類のなかでも人種によって進化の段階が異なると考え、人種差別の正当化を「科学的」に試みた思想。

●大問2

【出題意図】

東西世界をつなぐシルクロードの歴史的な重要性は言うまでもない。単なる物資の交易路だけでないルートの意義については、一般的な概説書でも説かれている。ここでは英文で書かれた解説を読み、シルクロードについての基本的な理解を問うこととした。

【解答例】

- (1) シルク・ロードの存在は、長い年月の間、知られてきた、つまりそれについての知識は決して完全に消え去りせず、マルコポーロがその一部をたどって旅したのであるが、その道筋にあるルートの実際の痕跡や多くの集落の証拠は、19世紀になってようやく他の世界にも知られるようになったのである。青銅器時代まで、あるいはそれよりも幾分古くに集落はその地域のオアシスの周囲で発展した。約4000年前に年代づけられる絹がアフガニスタン北部で発見されているが、それは当時に中国から輸入されたものに違いない。(絹は長い間、中国に固有のものであり、その生産技術は固く秘密にされていた。)約2000年前、中国とその西方の地域との間の交易が最高潮に達し、遊牧民がその交易とともに移動し始めた。ある民は襲撃し、ある民は定住し、ある民は王国を創立したが、すべての政治的な変化にもかかわらず、交易そのものは繁栄し続けたのである。このことすべては、イスラム教が広がるまでの、シルクロードに沿う多くの場所における複合文化の多様性や個性の発現に寄与したのである。

- (2) 仏教の教義や経典、ゾロアスター教の東進
あるいは紙や火薬の技術の西進